

の梢弱くして地にたるゝを釣糸竹と上いふ、扱江都にて、舊より義竹といへるは、多摩川のこなたなる、新田社の境内にあり、その葉並常に尋常の苦竹と一様なりといへども、その筍叢外に發する事なし、これは□福以南有竹長刺雲慈竹類也と岡部疏いへるに、その趣相似たりといへども、此筍の叢外に發せざるは、植しより數百年を経て、皆人常に其邊を往來して、其地至堅なるを以ての故なるよし、或人いへり、されば此義竹は慈竹類にはあらざるべし。

〔重修本草綱目啓蒙二十六〕竹略

慈竹一名義竹ハ、和名ナンキンダケ、竹細シテ高サ六七尺ニ過ズ、其筍叢外ニ出ズ、一名慈姥事珠。

慈孝竹同上、孝竹汝南、叢竹楊州、府志

〔古今要覽稿草木〕寒山竹

寒山竹は卽篠竹の一種にして、漢名を篠、一名拂雲篠竹といふ、その質女竹に似て節低く、高さ七八尺大さ小指の如し、每節相去る事六七寸許にて、其枝は五枝或は十枝或は九枝なり、また左右によりて、互に大小の異なるあり、凡女竹の類は、その始皆三枝なるも、年をへて新葉を生ずる比は、その舊枝の節間に、また二小筍を生じて、新舊相交りて五枝とはなれるものなれば、此枝の九枝十枝なるも、それと同じ事なるべし、その枝はすべて女竹よりも、殊に長くして繁し、故に掃帚となすによろしその葉また女竹よりも細密にして、五葉或は四葉を以て一朶とし、遠くこれを望めば頗る地膚子草の狀の如し、この種今本所押上村の種樹家にあり、その佗おほくこれあることを忘らず、

〔大和本草九〕黃金碧。竹譜ニ出タリ、黃竹ニシテ青筋アリ、雄竹ナリ、大名竹ニ似テ不同、京都北野草木屋ニモアリ、又一種スヂ竹ト云竹アリ、女竹ノ類ナリ、白キタテ筋アリ、是亦大名竹ト不同、
〔和漢三才圖會八十五〕銀明竹銀あらぢ。

芭木 紗地竹

銀明竹

筋竹

寒山竹